

予算決算常任委員会会議録

(質疑応答のみ)

令和5年12月7日

(開会宣言 午前 10:00)

委員 長

それでは、ただいまより予算決算常任委員会を始めます。

(挨拶)

議 長

(挨拶)

町 長

(挨拶)

委員 長

本日は、竹仲委員から遅れるとの連絡が入っております。

現在、13名が出席されております。

また、議長にも御同席いただいておりますし、説明のため、町長、副町長、教育長及び両統括幹、各課長、会計管理者の出席を求めました。

なお、職務執行のため、議会事務局長を出席させております。

それでは、早速議事に入りたいと思います。

それでは、早速ですが、去る11月27日、本委員会に付託されました議案7件の審査及び協議に入ります。

会議次第に記載されている順序に従って議案ごとに詳細説明を受けた後、質疑に入りたいと思います。

質疑においては、一問一答式で行いますので、御協力をお願いいたします。

また、理事者におかれましては、簡潔に要点を要領よく御説明いただきたいと思います。

それでは初めに、議案第74号 令和5年度美浜町一般会計補正予算(第5号)を議題といたします。

まず、この議案第74号について、去る12月1日に理事者より議長に対し、議案の正誤の申出書が提出され、議長の承諾が得られましたので、この件について理事者の説明を求め、続いて、本議案について説明を求めます。

総務課長。

総務課長

おはようございます。

それでは初めに、議案第74号に係る誤りについて、おわびと御説明をさせていただきたいと思います。

既に提出をさせていただいております令和5年度美浜町一般会計補正予算(第5号)において、議案書32ページの1、保健体育総務費の説明欄、上から4行目になります。よろしいでしょうか。

ここ、上から4行目、デザイン作成謝礼と記載すべきところをポスターデザイン謝礼と記載、また、上から8行目、Tシャツ制作委託料と記載すべきところをエントリー業務委託料と記載しておりました。

誤りの原因につきましては、財務会計システムにおいて、本来ですと説明コードの重複はエラーとして回避される設定になっておりましたが、補正予算入力時に説明コードが重複して設定され、補正予算事項別明細書に誤って出力されたシステムエラーでございます。

再発防止策としまして、財務会計システムにおいて、いかなる設定の区分であっても、説明コードの重複が発生しない設定に修正するとともに、その上で適正なシステム出力を前提とするものの、過信することなく、複数人で内容精査を徹底し、予算書の作成、チェックの時間を十分に確保し、業務を進めるよう努めていきたいと思っております。

申し訳ございませんでした。改めて御訂正のほどよろしくお願いいたします。

それでは議案の説明、補正の説明でございます。

どうぞよろしく願いいたします。

(詳細説明)

ありがとうございます。

議案第74号の説明が終わりました。

これより質疑に入りますが、質疑を区切って行いたいと思います。初めに、事項別明細書、支出11ページの議会費から21ページの衛生費までを一区切りとし、質疑をお受けいたします。

質疑はございませんか。

11から21ページまでです。

河本委員。

11ページの総務費の職員人件費なんですけども、人事院勧告等で、手当が引き上がるという理由は分かるんです。

それにしたら、その人件費が給与とか400万円削減だし、総じて下がってるんですけど、これ数字だけ見ると何か職員1人分が何か削減されたみたいに見えるんですが、結構、ほかにも事業別

委員長

河本委員

によって人件費が大きく削減されておるところがあるんですけども、一応、総務費の人件費として、何でこれだけ多くの額が削減されとるのかという理由を伺いたいと思います。

委員長 よろしいですか。

総務課長。

総務課長 今回の人件費の中には、人事院勧告に基づくものと異動等、4月の人事異動等がございまして、そういったこと、退職者とか異動もありまして、それで差引きで若干マイナスになっているところの科目もあるということで御理解いただきたいと思います。

委員長 よろしいですか。

ほかにございますか。

崎元委員。

崎元委員 12ページの公共交通運行事業の六百何万のところやけど、タクシーの購入が5台、ラッピングが10台ということなんですけど、既に5台の新車が、5台のハイブリッド車が購入されておるということでいいんですか。

委員長 住民環境課長。

住民環境課長 車につきましては、既にオオギさんのほうはもう納車をされているというふうに聞いておりますし、美浜自動車さんにつきましては、9月補正に加えて今回も追加で要望させていただいて、合計9台ということでお伺いをしているんですが、そちらについては、1月から3月にかけて3台ずつ入るということで聞いています。

ラッピングにつきましては、オオギさんと美浜自動車さん、5台ずつ、今ラッピングをさせていただくということで相談をさせていただいております。

委員長 よろしいですか。

ほかにございますか。

辻井委員。

辻井委員 17ページの福祉事業所等物価高騰対策支援の310万4,000円。これちょっと町長の定例の記者会見前の日に全協で説明のあったところで、ちょっとこの説明がこの日にさせてもらうということになったんですけども、この福祉事業所の対象の事業者、これこの間ちょっと見たら十何件あったんじゃないかと思うんですけど

も、これ美浜町とほかもあるんじゃないかと思えますけども、この辺の事業所の種類をお聞きします。

委員 長 辻井委員、美浜町内の事業所でよろしいですね。

辻井委員 町内の事業所が何件で、ほかは町外もあるんじゃないかと思えますけども、ここをちょっと聞きたいです。町内だけですかね。町内だけでいいですか。

それでは、これ事業所によって、人数で分散できると思うんですけども、この間ちょっと金額幾らぐらいになるのかなとお聞きしたんですけども、高いところと安いところだけでお聞きします。

委員 長 金額ということですね。

答弁ございますか。

健康福祉課長。

健康福祉課長 事業所への。

委員 長 マイクのスイッチを入れてください。入っていますか。

健康福祉課長 失礼いたしました。

介護の事業所に関しては、町内では、湖岳の郷さん、やはず苑さん、ダブルアールさん、社協さん、訪問看護すまいるさん、えん訪問看護ステーションと6事業所があります。

その中で、入所施設であったり、ショートステイとか、デイサービスとか、そのサービスの種類によって金額が変わりますので、多いところだと158万1,000円。一番少ないところだと、2万9,000円というような形になってございます。

委員 長 よろしいですか。

ほかにもございますか。

川畑委員。

川畑委員 12ページの乗ろうよ小浜線利用促進事業のことなんですけど、補助を出して何か乗ってもらうようなことでよかったんですかね。

ちょっと内容をもう一遍確認したいんですけど、説明お願いできませんか。

委員 長 まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長 ただいまの御質問でございましてけれども、今回の事業で実施しますのは、小浜線利用者限定のHAMABERRYの割引クーポン、その配付が一つと、あと北陸新幹線の敦賀開業日に合わせたイベ

ントが一つ。

あともう一つ、小さい子供たちにも小浜線に乗っていただくということで、小浜線に乗って北陸新幹線を見に行こうツアーみたいな、何かそういうふうなことをちょっと計画したいなということで考えております。

委員 長

川畑委員。

川畑委員

先ほど冒頭で町長も、もう100日になりましたというような話になっています。あと残り100日間で見に行ったりとか、HAMABERRYの補助金を出したりとか。そして、イベントをやるというんですけど、300万円でできるんですかね。

企画的な大きさとかがようわからんのやけど、今、最大に100年に1回のチャンスやということでもいろいろと言われてはいますが、この小浜線に乗ってもらわな駄目やというような方向性に対してのイベントが300万ぐらいでできるということでもよろしいですか。

委員 長

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長

イベントの内容につきましては、これまでからもワークショップ、住民さんを交えてのワークショップ等で御意見をいただきまして、こちらはできる限りの内容をやっていきたいと思っております。

この3月16日の開業で終わりというわけではなくて、新年度以降も引き続き、そういう新幹線の敦賀開業効果が得られるような取組につきましては継続してやっていきたいと考えております。

委員 長

川畑委員。

川畑委員

インパクトがないんですね。やるからには、やはり美浜町は敦賀開業になったときには、本当に来てほしいためにこれぐらいやりますよというような、そこまで気の入ったもんじゃないと、外から来る観光客や地元の者らは、意気込みをあまり感じんとかいうようなことになってしまうと、100年に一度のことやからもったいないと思うんで、その辺は覚悟して取り組んでほしいということを要望しときますわ。

何かあんまりも、気がないような言い方しとるから。頑張ってくださいよ。

委員 長

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長

御意見ありがとうございます。

気がないわけじゃなくて、取りあえずは工夫、いろんな工夫をしながら皆さんに喜んでいただける、また、来ていただけるにはやっぱり小浜線の利用促進につながるような形で考えていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

ありがとうございます。

委員長

川畑委員。

川畑委員

前に町長のほうから聞いたんですけど、九州のローカル線を視察に行ったときに、すばらしいローカル線の各町の催物があったというようなことをちょっと町長からも聞いたんですけど、そういうことも、敦賀から乗って美浜で降りる、美浜から次、三方で降りるというときのイベントのことも、やはり今後は考えていかなあかんと思うので、その指導も、町長がよく分かるとるかもしれんけど、指導もよくちゃんとしてお願いしたいと思っております。

委員長

町長。

町長

川畑委員のおっしゃったとおりですよ、九州の観光列車に乗ったときに、降りた駅、駅でのおもてなしというのが、すごい乗ったことのお得感なり、満足感につながったというのは、実体験を通してそう感じております。

今回、観光列車を見立てた電車が、この秋に2回、この小浜線を往復しております。

11月18日にこの2回目の列車が来たわけですけど、そのときに乗っていただいたお客様が60名ほどいらっしゃったんですが、その方々に対して、とにかく美浜のおいしい、まずへしこを感じていただくということで、駅のいわゆるこのギアのところで、観光協会とか我々職員が出まして、実際に焼いて匂いを感じてもらうようなことで食していただきましたし、美浜の地酒も味わっていただきながら、道の駅へも足を運んでいただくなど、試行的にこれをやったわけでございます。

例年の秋から本格的に観光列車をJR西日本が整備をして走らせると言っていますんで、これまで、そういうおもてなしを2回やってきたわけですけど、その課題とか反省点、いいところを伸ばしながらですよ。小浜線に観光列車が走ったときに、乗ってきて

よかったなど、ものすごいおもてなしがいいところやなど、そう実感していただけるような取組もやっていきたいと思っています。

またね、本格的な取組に際しては、皆さん方にいろいろ、また我々のほうから説明をさせていただいて、御意見を頂戴しながら、効果的なものができたらなと思っています。

またよろしくお願ひしたいなと思います。

ありがとうございます。

委員長

ほかにございますか。

藤本委員。

藤本委員

今の小浜線に関連することだと思うんですけども、最近の報道によりますと、北陸線のハピラインの関係がかなり出ています。また、年内にダイヤが発表されるということも報道されていきました。

それと運賃も990円から1,040円ですか。敦賀・福井間か、ちょっと1.15倍ぐらいに上がるという報道もされています。

小浜線の場合は、ハピラインとまた別なんで、運賃はそんなに変わらないんじゃないかなと思うんですけど、ただ、ダイヤですね。敦賀からのダイヤの関係で、敦賀乗換え最大10分かかると、今日の新聞かな、報道されてましたですけど、その辺のところも考えて、敦賀から新幹線のお客様がこちらへ入りやすいような、しっかりした、こちらもそういう交通的、時間的なこともつかんでおらんと、ちょっとマイナス面が出てくるんじゃないかなというような気がするんです。

特に小浜線のダイヤの場合は電化したときに、車両数が少ない関係もあって、行き違い箇所も少なくなった関係もあって、ダイヤの間隔がかなり広がっている時間帯もありますんで、そこら辺もしっかりと弱点もつかみながら、これから対応していくというのが大切かなと思うんですけど、その辺いかがでしょうか。何か情報入っていますか。ダイヤ改正とか運賃とか、そういうことに関して。

委員長

町長。

町長

開業になりましたら、やっぱり2次交通の確保というのは、これは非常に重要でございまして、小浜線もその一つの手段として、これはやっぱり利便性の向上というのは命題やと思っています。

おっしゃるとおり、小浜線のダイヤを見ますと8時から11時ぐら
いまで、敦賀方面からこっちに走る列車がもう動いていないと
いうような現状です。

これから新幹線のダイヤが発表される中で、小浜線の接続、もう
これはしっかり東京から来てもらったお客さん等をここでつない
でいけるようなダイヤというのは、これはもう重要な課題でござ
いますので、これは私どもだけでなく、嶺南6市町、県も含め
てその実現に向けてJRのほうに強く働きかけをしておりますし、
これからも、そのダイヤが見えた段階で、しっかりそこら辺のと
ころを注視していきたいなと思っています。

ありがとうございます。

委員長

よろしいですか。

川畑委員。

川畑委員

ちょっとお聞きしたいんですけど、3月16日に開業になった
ときに、美浜町の行政の職員や町長らは、どっち方面で東京行くん
ですかね。もう決めてありますかね。それはどうなんですか。

今まで米原経由で東京行くか、それとも敦賀駅で乗ったら、もう
そのまま東京駅まで行けるんですけど、これは議員のほうにもそ
ういうふうにしてくださいとかという要望あるんですかね。考え
ていますか、今。

委員長

総務課長。

総務課長

6年度の予算編成に当たりまして、一応予算編成方針というの
を出させていただきました。

それに基づきますと、ほぼ時間的には米原回り、北陸新幹線回り
というのはあまり時間差がないというところと、北陸新幹線のほ
うがやはりちょっと値段が高いということで、基本的には東海道
回りというのを指示させていただきまして、特殊な事情がある場
合については、北陸新幹線回りを認めるという形での予算編成方
針というのを今、町のほうで出させていただいています。

委員長

よろしいですか。

ほかにございますか。

梅津委員

20ページの公立小浜病院組合の負担金ということで、先ほど
総務課長はレイクヒルズもということを言っていましたけども、こ

れレイクヒルズも含めてこれだけの284万9,000円、これの割り振りはどうなっとるんでしょうか。小浜とレイクヒルズの割り振りは、どのぐらいの比率で予算を組んでいるんですか。

委員長

健康福祉課長。

健康福祉課長

この負担金については、レイクヒルズ及び小浜病院、両方の負担金となっております。

レイクヒルズ美方病院におきましては、242万3,000円余りと、小浜病院については42万5,000円というような内訳になってございます。

委員長

梅津委員。

梅津委員

分かりました。

委員長

よろしいですか。

ほかございますか。

幸丈委員。

幸丈委員

12ページのふるさと納税のところなんですけど、想定より多かったみたいな説明に僕は聞き取れたんですけど、その想定より多かった理由というのは、何か例えば返礼品がいいものが今年増えたとか、そういうのがもし何か分かれば教えてください。

委員長

産業政策課長。

産業政策課長

今、総務課長の説明もあったかと思うんですけども、10月に総務省から返礼品であるとか、その必要経費の割合について指導事項がございました。

それに対して返礼品の、今3割となっておりますけど、そういうのが下がるとか、そういううわさが出回ったとか、そういうことがあって、9月に駆け込み需要で、うちでも何千万という金額が入ってきました。それがあったもんですから、今後、1年間、3月までの見込みを立てたときに、このままでは足りないというようなことで、今回の補正をさせていただいたことになります。

委員長

幸丈委員。

幸丈委員

分かりました。

次なんですけど、18の子ども・子育て支援事業計画策定事業のところ、アンケートを採りますと、次の計画に向けて言っていたんですけど、そのアンケートの対象というのはどのような方か

ら取られるか、ちょっと教えてください。

委員 長

こども政策統括幹。

こども政策統括幹

これにつきましては、今現在子育て最中の小学校6年生の保護者世帯ということで予定をしております。

委員 長

幸丈委員。

幸丈委員

その回答というのはすごい分かるんですけど、結構最近見ていると、自分らの親とかより、じいちゃん、ばあちゃんが結構子供の世話をしとるところ、昔もそうなんかもしれないですけど、そういうふうな光景を見るんで、そういうところからも実体験されとるんで、何か子供に関係することがあれば、今後アンケートを採るというの1個の手かなと思うんですけど、それについてはどう思いますか。

委員 長

こども政策統括幹。

こども政策統括幹

今のおじいちゃん、おばあちゃんですか、昔の子育てと違うということで、いろいろ若い世代と意見が合わない部分もあるとお聞きします。そういったこともございまして、子ども・子育てサポートセンターでは、そういったことをおじいちゃん、おばあちゃんを対象に今風の子育てについての講習会等をさせていただいております。

そういった取組をさせていただく中で、いろんな意見をまた、お聞きしながら子育て支援のほうに反映させていただければなと思っております。

委員 長

幸丈委員。

幸丈委員

もう一つ、そのアンケート今回採る意味なんですけど、アンケートの採った内容を計画の中に反映させるのか、それともグループで多分、その計画をある程度つくると思うんですけど、そこの方向性とそのアンケートの回答の方向性が間違ってたかというのを確認するために採るのか、どちらかになりますか。

それ以外にも何かあれば教えてください。

委員 長

こども政策統括幹。

こども政策統括幹

子ども・子育て支援事業計画と言います、まず5年に一度、5年を1期として定めなければならないという、法律のそういった要請がございまして。それを受けてということで、まずはニーズ調査をしっかり把握させていただいて、次は子ども・子育て会議というのが美浜町にございまして。

これは町の附属機関としてあるわけなんですけども、そういった方にアンケートの結果を受けての支援策というのを、皆さんに協議していただくということでございます。

それをまとめて、第3期の事業計画を令和7年度から展開していきたいというスケジュールになります。

委員長 幸丈委員。

幸丈委員 アンケートを送っても回答されない方も多分おると思うんですけど、なるべくアンケートをもらえるように、そこら辺ちょっと頑張ってもらって、多くの回答からそういう計画をつくってもらいたいと思いますので、そこら辺よろしくお願いします。

委員長 こども政策統括幹。

こども政策統括幹 今ほど、幸丈委員のほうからアンケートの回収率の話もありました。前回見ますと、大体55%前後になってございます。

前回ですと、紙ベースのアンケートを回収ということになっていましたけど、今DXの時代でございますので、紙ベースプラススマホで回答できるような、回答しやすい環境も考えていきたいというふうに考えてございます。

委員長 よろしいですか。

ほかございますでしょうか。

高橋委員。

高橋委員 ちょっとただいまの件で聞き間違いかもしれないんですが、アンケートをする対象は、6年生の保護者のみということですか。6年生までの保護者全員ということですね。

分かりました。

委員長 よろしいですか。

ほかございますか。

(なしの声あり)

委員長 ないようですので、次に、22ページの農林水産業費から33ページの教育費までの質疑をお受けいたします。

質疑はございませんか。

河本委員。

河本委員 25ページの生産者販売チャレンジ支援事業の135万円なんですけども、これは道の駅に出品する地元生産者の支援補助なので、

非常にいい取組をやられているなというの分かるし、必要だというふうに考えているわけですが、地元のこういう補助をしながら、地元の生産者というのが活性化して行って、活力あるような産品をつくるとか、そういったところにはつながっていているような状況なんではないでしょうか、その辺伺いたと思います。

委員 長

産業政策課長。

産業政策課長

今回は手数料20%の5%を補填するというような形でやっておりますが、できたらその生産者、直売所に出していただく方を増やすような流れしか今ないかなというふうには思っています。

今後そういった方がどんどん増えてきて、またそこでの販売意欲というものがしっかりついてくると、また、そういった流れができるのかなというふうに思っています。

今はまだそのレベルまでいっていないかなと思っています。

委員 長

高橋委員。

高橋委員

今の件で私も質問しようと思っていたんですが、この生産者販売チャレンジ支援事業というのは、どういう内容なんですか。

もう少し詳しく教えていただけませんか。

委員 長

産業政策課長。

産業政策課長

大きくは直売所の手数料2割ございますが、町内のそのの出店事業者の5%を補填するというようなことが流れかなと思っています。

委員 長

高橋委員。

高橋委員

そうすると手数料15%でやりますよ。だからやりませんか。そういうふうな支援をして生産者を増やそうと、こういうことですね。

委員 長

産業政策課長。

産業政策課長

この補填に関しましては、そういうことになるかと思えます。

委員 長

河本委員。

河本委員

同じく25ページのところの観光総務費で、職員の人件費が1,000万円から削減されとるんですけど、先ほど総務費のときは人事の異動でそういう差が生まれるということなんですけど、ここの観光総務費の人件費とか明らかに削減の額が大きいんで、そんな人事の異動だけでこれだけの差額が生まれるのかなというちょっと疑問なんですけど、この辺の理由は何なんではないでしょうか。

委員長 人件費の削減について。
総務課長。

総務課長 観光総務費につきましては、人数の減がありまして、そういったところを踏まえて、こういった金額になっております。

委員長 河本委員。
河本委員 額が額なので人数の減があるのかなと思って、そのとおりなんです、その人数が減少した分の補填というのは、人員の補充というのは考えておられるんですか。

委員長 総務課長。
総務課長 当初、5年度当初は6人ということで計上しておりましたけれども、実際は5人ということになりましたので1名減になっておりますが、今、5年度につきましては現状で対応させていただいてるところでございます。

委員長 河本委員。
河本委員 今は現状で対応しておるんだけど、今後については人員を補充するような考えというのは持っていないでしょうか。

委員長 総務課長。
総務課長 観光につきましては、こういった北陸新幹線を控えた中で重点的な事業になりますので、そういった分、正職員では対応できなかったんですが、会計任用職員とか、そういったところで、5年度中につきましては対応させていただいて、これ以降につきましては、6年度の人事異動等で総合的に、全体を見た上で判断をさせていただきたいというふうに思っております。

委員長 河本委員。
河本委員 次の26ページですけども、三方五湖ゾーン活性化事業の570万円なんですけども、これが電池推進遊覧船の運航負担金なんですね。指定管理者と契約を結んだときに、こういう運航の負担金が発生するというようなことは聞いていなかったんですけども、事業者の運営費の中から、利益の中から運営していくんで、指定管理料発生しないというふうなことは聞いていたんですけども、電池推進船の運航に関してこういう負担金が発生するような契約になっていたんですかね、そもそも。

委員長 観光誘客課長。

観光誘客課長

今の御質問にお答えさせていただきます。

御存じのとおり、2隻目のGREBEは納船が遅れていまして、10月から2隻同時という形にはなっとるんですけども、これは新型コロナウイルス及びロシアのウクライナ侵攻等によりまして、半導体の不足が生じまして、こういうことが起きたわけでございます。これは町、そして三方五湖DMO、どちらにも責めを帰すべきものではないというふうに考えております。

また、令和4年8月31日に、三方五湖DMOと締結しました基本協定書におきまして、天災、地震とか津波、落雷、暴風、洪水とか、あと人災、戦争テロ、暴動などの不可抗力の発生による費用については、協議をした上で町が負担するというふうな形で締結をしておるところでございます。

基本的協定書では、令和5年の4月から2隻の船を用意させていただくと、それで運航してくださいねということで私どもは協定を結んでおりますので、そういう形が守れなかったというところから、費用負担については町が負担するというふうに考えているものでございます。

委員長

河本委員。

河本委員

様々な理由があって、事業自体が赤字になることがありますけども、そういった理由の中に2隻目の船の運航が遅れてしまったということもあるでしょうし、簡単に考えると、これによって赤字補填しているのかなというふうに捉えられるんですけども、赤字幅が拡大しているということで、やはり町のほうも負担を背負って、こういった赤字補填をしていかなければいけない。

今後もうこういったことが繰り返し発生していくような環境にあるのかどうかというのを伺います。

委員長

観光誘客課長。

観光誘客課長

今ほど申し上げましたとおり、考え方として、赤字補填という考え方ではなくて、不履行といいますか、うちが2隻、4月に用意できなかったという形での不履行になりますので、それに対する負担金ということでお考えいただきたいというふうに思います。

委員長

河本委員。

河本委員

それからその次の、三方五湖の湖面等更なる魅力アップ事業9

38万2,000円と、三方五湖の湖面等の更なる魅力発信事業の954万5,000円なんですけど、これはどちらも業務委託料なんですけど、これというのでもDMOに業務を委託されるんでしょうか、どうなんでしょうか。

委員長
観光誘客課長

観光誘客課長。

現在のところではまだ業者が決まっておらず、議決いただきましたら業者のほうを選定していきたいというふうに考えてございます。

委員長
河本委員

河本委員。

これらの事業でいろいろこう取り組む内容とかがあってあるじゃないですか、例えば船の整備に費用がかかったりとか、キャラクターの作成費用とかに経費使ったりとか、そういうのは仕様書みたいなのがあって、こういったことをやってくださいねというのが要求としてあるじゃないですか。

それに対して事業者が物品を購入したり、何か整備をするという、何か確証がしっかりとしたものが取れるような内容にはなっているんですかね。

委員長
観光誘客課長

観光誘客課長。

まだ確定した仕様書はございませんけども、こういうものをつくっていただきたいというのは頭の中にございまして、それを町のほうで設計してございますので、発注段階では、しっかりとした仕様書をつくって示しながら、しっかりとした見積りを取って事業の遂行に努めたいというふうに考えてございます。

委員長
河本委員

河本委員。

予算を審査する側で気になるのが、こういう委託料とかがいながら、結局事業者の赤字補填に回っているとかがというのは許されないことなので、そうならないような仕組みがちゃんと行政としてつくっているのかなというのが気になるんです。そういったところの観点はどうでしょうか。

委員長
観光誘客課長

観光誘客課長。

この事業につきましては、これまでいろいろレイクセンター、そしてレインボーラインとかいろいろ投資をしてきたわけなんですけども、ここに来まして3月16日の北陸新幹線敦賀開業、そしてその後の

持続ということもしっかり考えていかなあかんと思いますので、それに対する委託事業ということで捉えていただきたいなというふうに感じております。

委員長 よろしいですか。

松下委員。

松下委員 関連してなんですが、五湖ゾーンを集中的に投資をやって誘客をするということについてはよく理解できるんですが、本当にこうすることで収益がどんどん伸びていくというふうに考えられるのかどうか、その辺の展望をちょっとお聞きしたいと思います。

委員長 観光誘客課長。

観光誘客課長 これまでレイクセンターがなかったわけであれだったんですけども、今回レイクセンター、そしてレインボーライン、あと湖周ということでサイクリング、3つの要素の見方がございます。それらを使って上手に観光誘客を図って、今度はインバウンドまでしっかり呼び込んで観光誘客を図っていきたいと思います。

観光誘客の上にもさらにお金を落とさせていただくと、そういう仕組みが本当は必要なんだと、それが一番大事だと思いますので、そういうこともしっかりとらみながら考えていきたいなというふうに考えてございます。

委員長 松下委員。

松下委員 答弁は大体分かるんですけど、最初僕らがこの計画を聞いたときに、二回このレイクセンターの破綻があって、その後のこの計画なんですね。

何で最初は指定管理はもらわないということを書いていて、今、違った形でそれを補填するのではないかという疑問も出てくるんですけど、なぜ最初の計画が軌道に乗らなかったのか、その大きな要因は何だと思っておられますか。

委員長 観光誘客課長。

観光誘客課長 当初計画しておりましたDMO計画と大きく今のところ格差があると、乖離があるというのは十分承知しているところです。それは、去年9月から指定管理をDMOにもお願いしておるところでございますけども、私どもの責任もあるかと思っておりますけども、しっかりと周知ができていなかったと。今年度になっっているいろんな営業活動とか

出向宣伝とかいって、特に三方五湖エリアについては説明を行っているわけなんですけども、それでも全然まだ説明不足なんかなというふうに今のところ実感しているところなんです。

それで、今回このような形で補正をさせていただきまして、さらなる魅力アップ、そして魅力の発信に努めたいなというところがございます。

委員長

松下委員。

松下委員

今の答弁ではなかなか納得できないと思っています。やっぱり分析、何でこうなったのかという分析をしっかりせずに規模だけで投資していくというのは僕は間違っていると思うんです。

僕の認識としては、団塊の世代があんまり移動できなくなってきたと。団塊世代というのは、ぼこっと膨れて、後はもう細っていくという世代なので、そこが高齢化して、バスでなかなか移動しなくなった。

昔は、僕らの会社時代のときは、課単位、事業所単位で毎年1回以上、旅行に行っていたんですけど、そういう時代でもなくなっているということなんで、その視点の延長に箱をつくって誘客しても僕は限界があると思うんです。そこは考え方を変えていかないと。

これは指定管理料、かなりの額を積まないと、この事業は、僕は持続可能ではないと思っています。

箱を変えるというところでは何をすればいいかというのはいつも僕も考えるんですが、やっぱり地域の資源を生かして、地域の人たちが産業をつくれるような投資を目指していかないと、ずっと箱ばかりつくっていくと同じようなことになると思いますね。

関連して、これは今の意見なんですけど、570万円のような資金が来年以降もずっと指定管理料以外の名目で考えているのかどうか、そこをちょっとお聞かせください。

委員長

観光誘客課長。

観光誘客課長

負担金につきましては、あくまでも今年の不可抗力から発生したもので、来年度以降はこういう負担金は発生しないということで考えております。

それと、先ほどお話もありますけども、レイクセンター、今年4

月から開業したわけですが、私も今年4月に、課長の命を受けてこういう形で出席させていただいているわけですが、私も同じようにレイクセンターと一緒に育っていくというんですか、たくさんお客さんと呼んで、さらには今まで180万人とか、たくさんお客さんが来られたわけですが、去年は60万人ぐらいのお客さんにとどまっているわけです。

それを何とかそういう形で、三方五湖エリアという形でのお客さんの呼び込みをしっかりと図っていきまして、観光誘客に励みたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

委員長
松下委員

松下委員。

最後になりますが、やっぱり思いだけではなかなか事業というのはストレートに成長していけないというのは僕の経験からもよく分かることなんです、ちゃんとしっかり分析した上で、そこに政策あるいは資金を投入していくということを徹底していかないと、こういう事業はうまくいかないということを私のほうから言っておきたいと思います。

以上です。

委員長
町長

町長。

船の運航につきまして、いろいろ御心配の向きをいただいたわけでございますけど、一番に我々は心強く思っていますのは、乗っていただいた方の大半が、この船は本当によかった、見るところもあるし、ガイドさんも一生懸命、この歴史であったり、自然であったりを説明してもらえることは、本当に素晴らしいと、そういう声をたくさんいただいております。それが我々の一番心強く思うところでございますし、足りない部分というのは、まずそのいいところを、いろんなところにPRしきれていないというのがまず一つあると思います。

三方五湖自体の観光資源としてのすばらしさは我々は認識しておりますけど、関東方面、北関東、北信越ではそんなところあるのという、まだまだそんな状況です。

首都圏で実施した三方五湖の認知度は10%を切っているような状況です。県もいろいろPRに力を入れておりますけども、まだまだそれが足りないというところがございます。

船に限って申し上げますと、非常にコース設定について、もう少し魅力を増やすことができるといふところもありますし、あとは多様な活用というのもあります。

第1隻目のCOOT自体は、これは夜間航行も可能でございますし、今回の魅力アップの中でも、夜間、照明をつけながら違った楽しみを味わっていただけるといふようなことも、委託の中でしっかり固めていきたいと、このように思っていますし、乗っているときに、例えば秋に乗りました。冬のたたき網漁という話をしても、これは分かりません。

乗っていただくと分かりますけども、あそこにモニターがございます。あそこで冬のこと、春のこと、夏のこと、併せて紹介ができるとするなら、それはもっともっと魅力につながります。

さらには、サイクリングの組合せ等も考えられます。

我々は、今回のこの補正をいただく中で、そういった魅力をさらに加え、先ほど申し上げましたこのPRをしっかりとすることで伸ばしていける、そのように力を加えていきたいというふうに思っています。

未知の部分があるのは確かでございます。御心配の向きも分かります。

我々、そういったところをしっかりと課題を捉えて、適正な運航、さらには経営につながるように一生懸命やっていきたいと思っていますし、ここに人が集まることは、いつも申し上げています、周遊滞在、三方五湖のレイクセンターがなしに、レインボーラインの天空のテラスだけやったらどうなります。三方のインターに下りて、そのまま回ってもらったら、はいさようなら、これが我々一番危惧するところです。

いろんなどころを周遊してもらふような魅力のあるところをつくることで、サイクリングのそうですけど、美浜町に泊まろうか、飲んでちょっと地酒を楽しもうかって、そうならないと、これは絶対波及効果につながらないと思っています。

未知の部分はありますけど、我々はそういう思いで課長も熱い思いを、思いだけではあかんといふのは分かりますけど、思いがなかったら物は進まん、できないと我々は思っていますので、また

議員の皆さん方も、足りない部分、こうやったらどうやろ、みんなでここを盛り上げることがまちの活性化につながるんやという意識をぜひ皆さん持っていただきたいなと思います。

我々も一生懸命やります。よろしくお願いします。

委員長

松下委員。

松下委員

町長の答弁をいただきましたので、その中でちょっと言い残した、言っているんですが、なかなか受け止めてもらえないという部分は、サイトシーイング、観光だけを今語っておられるんですけど、三方五湖周辺、あるいは三方五湖そのもので生産可能な資源をどうやって地域でうまく維持していくかということに投資を、目を向けてほしいというお願いをしているので、そこをぜひ。

これは僕、前からも言っているんですけど、我々も新庄地区でそういう努力をしているんですが、美浜町も投資をする場合はそういう視点を、サイトシーイング、観光という場面だけではなくて、もっと地域の資源を使った小さな産業を育成するようなところへ投資の目を向けてほしいというのが、私自身の要望であります。

以上です。

委員長

町長。

町長

全くそのとおりでございまして、周遊滞在の核になつとるのが三方五湖の天空のテラス、それからレイクセンター、これを核と我々は位置づけています、サイクリングコースも。だからそこを核にして広げていく。

水晶浜にも回りますよ、新庄の山里ゾーンもいいところあります。トレッキングもしょうかいなど。泊まってもらいましたら、それぞれの産品、海産物もおいしいです。それを使ってもらうような努力、それを増やすような努力も併せてやっていくことで、新幹線の開業効果が広がって、我々はそれをイメージしています。

だから、観光地だけに目立っているようにおっしゃいますが、そうでないです。

我々は併せて、ほかのところも一緒に足踏みもそろえながら効果につながる取組をやっています。

道の駅の生産者の5%の話がございました。これも一緒です。

それを継ぎ足すことで、また農業サポートセンターをつくること

で、ちゃんと後押しをしています。

北田のレモン、菅浜のレモンもそうです。次の産地化に向けた足踏みも始まっております。

新庄もそうです。土地の最適化の利用事業、国庫事業を入れました。ここでできる林産物もそこに回せる、いっぱい可能性があります。

我々はそういった視点も持ってやっていますので、御理解をお願いしたいなと思います。

委員長

松下委員。

松下委員

ほんまに最後にします。

三方五湖って僕もなかなかほかの地域にない優れた資源だと思っています。

その三方五湖を僕らの山から見る視点では、ハゼであるとか、それからシジミであるとか、もう一つ、僕ら中学校の頃は、町長も分かると思うんですが、地面の上から海の底まで見えて、ハゼがそこにいると、その前に餌をやるとすぐかぶりついて捕れた時代があったんですね。

だから、そういう意味では、シジミ漁の問題、そういうハゼの使い方の問題、それから水質の浄化、ここに僕はやっぱり地道に投資をしてもらいたいというふうに思っていますんで、そこはぜひ聞いていただけたらなというふうに思います。

以上です。

委員長

高橋委員。

高橋委員

同じページで、三方五湖のエリア魅力アップ業務というのがありますよね。

もう一つは発信業務なんだけど、これ具体的に何をやるのかと、ここが大事なんですよ。

委託したらできるというわけじゃないわけで、何をやらなきゃいけないのか。もっともっと魅力を上げないかんわけですわな。

私もこの間、諏訪湖を自転車一周してきましたけど、魅力は全然、やっぱり規模も違うし人も違うんでしょうけど、いろんな各市町が協力して1周ぐるっと回れる道をちゃんとつくって整備していますよね。周りにいろんなところもあるし。

三方五湖、私しょっちゅう行くんです、自転車で。昨日も日向湖と久々子湖に行ってきたけども、何をやろうとするんですか、魅力アップするために。何が課題だと考えているんですか、今。

よその観光地に比べて、十分競争力のある三方五湖にするためには何が足りないと思っているのか、そこをよく議論をしないといかんのですよ。

だから、こういうふうな形のをやるんだと、そのこのところの議論が、ここでできるのかどうかは知りませんが、出来上がってくるとがっかりするものが多過ぎる。

掛け声はいいんですよ、すごく美辞麗句が並んでいる、こういうものにしましょうと。そういうマインドは分かるけれども、具体的に何をどういうふうにするんだ、そのデザインはそれで勝負できるのかと、そういうふうな議論をしっかりとやるようなシステム、仕組みを考えてもらって、これはいいなと、本当にお客さんがこれでいいなというふうに思うのかというところを、もっと議論をしなければいけないと思っているんですけれども。

今日、このこのところで言ったら、何が三方五湖の魅力に足りないと思っているのか、ちょっと教えてくださいませんか。

観光誘客課長。

ただいまの御質問ですけれども、ただいま魅力アップ事業につきましては、4つの業務を考えております。

一つは電池推進船の航路及び用途の拡大ということで、先ほど町長の話もありましたけども、ナイトクルーズを実際やれないかというところで、船にライトをつけて船の船底を明るくするような、そういうことで船の魅力、湖の魅力を上げるとか、そういうことも考えてございますし、ゴコイチサイクリングとリンクしまして、船に自転車を積めるような、そういうものを設置しましてサイクルシップ。列車とかでもそういうのがございますけれども、船にもそういうふうなものをつけてレイクセンターから自転車を乗せて、例えば海山のほうに寄港すると。そういうことで、そこからまた自転車で動くような、そういうようなサイクルシップ化というのもできないかというような検討もしてございます。

また、そのほか、SDGsの教育メニューとしまして、今各県に

委員長
観光誘客課長

においてSDGsメニューを活用したプログラムというのは大変多く開発されているんですけども、うちにも教育旅行ということでたくさんのお客さんが来ていただいております。平日は特にそういう形で来ていただいて、集客のアップとか売上げのアップができないかというようなことも考えてございます。

あと、3点目に、三方五湖の歴史の探訪メニューということで、御存じのように、三方五湖というのは長い歴史があると。年縞とか、そういう長い歴史がありまして、そのほかにも人々のなりわいというんですか、シジミ漁とか、ぬくみ漁、たたき網漁とか、いろいろなこれまでの人々のなりわいがあります。そういうなりわいとか、そういうことをストーリーとして作成しまして、レイクセンターのガイドさんがお客さんに対して、ここらはどういう歴史があるんだよとか、そういうふうな厚みを持ったガイド育成にできないかと、そういう取組も考えてございます。

あと、最後にキャラクターグッズなんですけれども、COOTとGREBEというキャラクターを考えているわけなんですけれども、なかなか広まっておりません。それらをお客さんがレイクセンターに来たときに、今考えているのは、等身大ぐらいのをそのまま売るというわけではなくて、そういうことが、それがCOOTとGREBEということで認識していただくような、そういうこともちょっとできないかなというふうに考えてございます。

委員長

高橋委員。

高橋委員

だから、今、お話しになったのは思いの部分ばかりなんですって。分かりますよ、思いは。情熱があるのも認める。

しかし、具体的に、何と何と何をいつまでにやるんだということです。

この間も言いましたけど、久々子湖一周自転車で行こうと思ったら、あれは三方の若狭町のエリアなんだからしようがないですよみたいな答弁があったけれども、がたがたのところを通らんと久々子湖回れんわけでしょ、一周。そういうのを、そのまま直しもしないで、そしてサイクリングをやるんですと。美浜の久々子湖をもっと魅力あるものにするんですと。

それ、そのまま放置しておいて魅力あるものに本当になりますか。

どうしようという話、具体的にやってくださいよ。

ライトアップするんなら、どういうふうなライトアップをするんですかと。

やるんですね、具体的に半年ぐらいでやるんですね。そしたら、どういうふうな形のをどういう形でするといようなことを具体的に示していただいて、それが本当に競争力あるのかと。お客さんを引きつけるのかという視点で、いろんなどころからたたかないかんですよ、いろんな方向から。

そして決めて、これなら行けるわと。それでもうまくいかんことが多いんですよ、世の中というのは。だから、そういうところをきちっとたたける。

決して、けちをつけているわけじゃないです。もっといいものを、ベターなものにしようということで、いろんな意見を聞いて。特に、ノーという意見です。これじゃ駄目だという意見をしっかり聞いて、直していくということが大事なんじゃないですか。

委員 長

回答は、答弁要らないんですよ、高橋委員。

町長。

町 長

確かに完璧なものをプランして、完璧なものを動かして、完璧に人を集める、これは大事なことでございまして、そういう意識でやっていきたいとは思っていますけど、動かしながら、この観光に来ていただくお客さん、それぞれやっぱり受け止め方が違ったりすることも否定できないこともございます。

具体的に示していないとおっしゃいましたが、我々は今説明したように、こういうものをやりたい、こういう夜の活動をやりたい、人の流れをこう引っ張っていきたいということは説明をさせていただきました。

これはしっかり議論をする中でつくり上げていきたいと思っていますし、そのための専門のアドバイザーも来ていただいております。しっかりそういったことで議論をしながらつくっていききたいと思っています。

三方五湖は、これはもう本当に何が足りないっておっしゃっていますけども、部分的に捉えればそういう不足するところはございますけれども、三方五湖全体としては魅力がいっぱいと僕は思

っています。これをいかに知ってもらい、体験してもらい、口コミ、それから観光に来ていただくお客さんを増やせることだというふうに思っていますので、そういう面でもしっかり進めていきたいなと思っています。

委員長
高橋委員

高橋委員。

私は完璧に進めてくださいなんて全然思っていないですよ。

何から優先順位をつけて、マンパワーも決まっているし、財源も決まっているんだから、一気に物事はできるわけがないんで。何をやるのが一番効果的かということよく考えて、やること一つ一つのクオリティーをしっかりと確かめて、失敗したなということになるべく減らすと。そういうふうな取組で、その部分が欠けているんじゃないでしょうか。

具体的に、ずっと回ってみると、いろいろ三方五湖の魅力というのは非常にありますよね。全国いろんなところに行きますと、これだけ風光明媚なところというのは数えるぐらいしかないだろうという気はします。

私もいろんなところを、全都道府県、私は行ったことがございますので。

こんないいものを生かさないという手はないという気持ちは持っていますけれども、やるなら一つ一つクオリティーの高いものを積み上げて、それも早くですよ、競争力のあるものにしてほしいと。その具体的な取組というのは何ですかというのを、私、今、聞いているんですけど、先ほどのような思いだけでは納得できませんということです。

委員長
町長

町長。

気持ちはよく分かっております。

ですから、船についての魅力の在り方というのを細かいところまでは説明はしておりませんが、我々が申し上げたこと、これを形にすべく、委託の中でどういう形が一番いいんやということをしつかり積み上げていきたいと思っています。

思いは一緒でございますので、そこら辺のところを理解いただきたい。我々は熱い思いだけでやっているわけではありません。

動かしながらの反省を踏まえながら今回の委託の中で、さらによ

くなるようなことをイメージしていますので、それはぜひとも御理解をいただきたいなというふうに思います。思いは皆さんと一緒にございます。

委員長
高橋委員

高橋委員。

分かりました。

思いは同じだということですね。それはもう分かっていますよ。思いは同じなんだけども、やり方としては、私としては疑問があるということを行っているだけでございます。

先ほど、電池推進船。違うことをちょっと言わせていただきますけど、電池推進船の件で、2隻目が遅れた。コロナが非常に蔓延してしまった。これは不可抗力だったと私も思っているんです。

それは、正直にそのところは、そういうことで幾ら逆立ちしても最初から計画どおりには行きませんでしたよ。それは理解できるので、それは全てこれ税金でやっていることなんで、我々の立場としたらばクリアにしていかなきゃいけない。明瞭会計をやっていかなきゃいけないということなんですよ。

この件については理解しました。

今後うまくいくということでぜひ頑張ってくださいと思いますけども、道の駅で20%に対して5%オンしますと。

今まで、20%の手数料では出店する人が、ちょっと難しいという声が強いから15にしたいんやと、だから5%出すんやと。そういうふうな背景があるなら、そこはしっかり言ってほしいんです。私が質問して、実は20を5にするんですと。

悪気はないんでしょう、隠す気もないかもしれませんが、やっぱり税金を運用して、そういう政策でお金をここに投じていくわけですから、そこは理由はしっかり説明していただきたいなという思いがございます。

これは答弁は要りません。

委員長

よろしいですか。

中牟田委員。

中牟田委員

私ごとになりますが、私は海山の生まれなんです。

それで、海山には、昔子供の頃から田んぼがなかった。それはどうしてかということがなかったんです。それで、海山の人たちは、

久々子や、それから今の総合体育館、それから、ボートのところなんか全部田んぼを買っていたわけです。

でも、その田んぼは腰まで入る深い田んぼで、美浜の人がつくりたくないという田んぼを買ってつくっているんだよと言われて、そして、私たちは子供のときに、小舟に乗って浦見川を通過して、その親が田んぼをしている間に宇波西神社の境内で遊び、浦見川の入り口でシジミ貝を獲って過ごしてきたので、浦見川に対しては非常に思いが深かったんです。

ですから、私は行方久兵衛さんの紙芝居を作りました。それはなぜかというと、その浦見川を通るたびに、母は枳形のところに来ると行方久兵衛さんの活躍を話してくれた。私はせめて、美浜でお仕事をさせていただけるようになったから、もともと須磨先生に対しても恩があったので、紙芝居を作ろうということで。それで、私はたくさんの人にこの三方五湖や浦見川を知ってほしい。

もちろん観光誘客はとってもすばらしいと思うんですけども、地元の人たちが、なかなか浦見川を通ったことがない人が多いんです。大藪でも浦見川が行ったことがないと言われる方が多くて、今回、10月になって、初めて高齢者に対して半額になったので、大藪の介護予防教室をされている方たちがみんな行かせていただいて、よかったわとおっしゃるんですね。

だからやっぱり、地元の人がもし誘客が少なかったときに、せめても料金が半額で美浜の人たち、そして水月湖側の海山の人たちぐらいは、高齢者に対して遊覧船に乗せていただければなと思ってきましたけれども、観光1本ですから、なかなかそういう話もできなかつたんですけれども、その浦見川というのはもっともっと深い、幼いときからの思い出がありますので、いろいろと私もいつの日かは浦見川のことを遊覧船で作った紙芝居をしたいなと思って、前課長さんに機会があったらさせてください、分かりました、考えときますってそのままでした。

そんなことで私ごとを話させていただきましたけれども、やっぱり観光誘客の前に、高齢者の方、この地域のある先輩方々に、僅かなお金で乗れるような、やっぱり年金暮らしですから、皆さん1,900円は高いと高齢者の方はおっしゃるんですね。ですから、

その辺のところもお含みいただきたいと思います。

委員 長

観光誘客課長。

観光誘客課長

今の御意見ありがとうございます。

今、レイクセンターのほうでは、美浜町民と若狭町民は半額で、取りあえず3月までは運航しているところでございます。

私も個人的にもお金を払いながら何回も乗っ取るんですけども、ぜひ議員の皆さんも乗っていただきまして、またそれとほかにもたくさんお客さんをお呼びできていただいて、乗っていただけると本当にありがたいなというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

委員 長

ほかございますか。

梅津委員。

梅津委員

町長の熱い思いとか、誘客課長の熱い思いは十分理解できましたけども、これ今現在、美浜町だけでこの三方五湖ゾーンを活性化しようというふうな方向になっているんですけども、若狭町との連携というんですか、その方向性はどうなっているのか、何かタイアップしながらここを進めていこうというふうな計画があるのかどうか、お聞きしたいと思います。

委員 長

観光誘客課長。

観光誘客課長

現在のところは若狭町への航路が、若狭町への海山を予定しておるんですけども、海山の棧橋へ帰航する航路というのが決まっておりません。

若狭町の観光を生かすにはそういう航路をしっかりと申請して確保する必要があります。

そうすれば先ほども申し上げましたけども、美浜町から自転車を積んで、その自転車とともに人も一緒に行くんですけども、若狭町のほうで回遊してまた帰ってくるとか、そういうふうなプランも可能になってくると思うんです。

今回のこの補正でそういう航路もしっかり確定して、若狭町の海山地区の人ともしっかりとした協議が必要なんですけども、そういう御理解を得ながら、若狭町のほうにもそういう利益がもたらすような、もちろん三方五湖というのは両町の資産でございますので、そういう形でしっかりと進めていきたいなというふうに考

えてございます。

委員 長

梅津委員。

梅津委員

過去に、菅湖に何か噴水を造って湖水をくみ上げながら噴水にして、何かライトアップしたらどうやというふうな御意見が多々ありましたけども、その辺の進展というのは何か、若狭町との話合いとかあるんですか。進んでいるかどうか。

単なる構想だけで終わったんでしょうか。

委員 長

観光誘客課長。

観光誘客課長

今、菅湖の、私は就任してからそういう話は聞いておりません。以前、久々子湖でそういう話がちょっとあったのは聞いておりますけども、まとまった話にはなっていないということでお聞きしております。

梅津委員

今ちょっと私言ったのは、若狭町との連携の関係でそういうふうなことも進んでいるのかなということで、ちょっと質問させてもらいました。

次、もう一つ質問ありますけれども、先ほどからも出ているように魅力アップ事業と発信事業、これ2つに分けて莫大な予算をつけておるんですけども、これは何か一本化してやればもっと経費が安くなるんじゃないかなと思うんですけども、これ2本立てにする必要があるんですか。それをちょっと教えてください。

委員 長

観光誘客課長。

観光誘客課長

言葉にすると三方五湖エリアの魅力発信、そしてアップというのは近いこともあるんですけども、実際やる中身というのは全然違ったものでございまして、発信というのは、その魅力を言葉のとおり発信するわけですけども、3つの視点から、天空、湖面、湖周の魅力を発信することで、インバウンド用のパンフレットを作成したりということも考えてございますし、一つには観光プロモーションの情報発信ということで、いろんな動画を、先ほど言いましたぬくみ漁とか、たたき網漁とか、そういういろいろな観光資源である動画を撮影しまして、それらをレイクセンターの待合室やら船のモニターで流してお客さんに見ていただくような、そういう取組も考えております。

あと、ファムトリップといいまして、観光地の誘致促進のために

旅行業者やブロッガー、メディア等を現地に視察して呼ぶというのがファムトリップというんですけども、そういうような形で美浜町にそういうメディアの方を呼んで、美浜町を知っていただくと。

それでさらにその人たちが、各地に帰りましてお客さんをこちらのほうに据えていただくというような、そういう取組も考えてございます。

また、台湾市場向け、今年夏頃にトップセールスということで台湾のほうにも行ったんですけども、台湾向けのパンフレットを考えてございます。

その他いろいろと、あと3点ほどあるんですけども、これは細かいことなので省略させていただきたいと思います。

委員 長
梅津委員

梅津委員。

先ほどから出ていますように、思いばかりを語っておりますので、何かロードマップでもつくっていただいて、ここからここまでの期間にこれを完結させるというふうな工程をつくっていただいて進めていくということで、要望しておきたいと思います。

委員 長

よろしいですか。

崎元委員。

崎元委員

32ページ、すまいるコミュニティ事業なんですけど、そこで運動公園が8,100平米、北西郷のほうで4,000平米の芝を住民公募で張るという話なんですけど、とても住民公募で張れるような面積でないと思うんですけど、いかがでしょう。

委員 長
生涯学習推進課長

生涯学習推進課長。

今ほどの質問にお答えします。

運動公園については、敷地造成工事ということで、業者に発注予定となっております。

その中の芝張り部分について、住民の方々の御協力を得て行う予定で考えております。一緒に芝張りをしていただける方を募りますが、参加人数によっては業者の協力を得ながら作業を進めたいと考えております。

この公募の仕方については、たくさんの方に参加していただけるように、今後検討を重ねてやっていきたいと考えております。

また、北西郷については、北西郷公民館運営委員会のほうに補助

金としてお願いする予定です。これは北西郷公民館運営委員会の方の全体の協力を得て、芝張りをするというので、ここについても芝張りの専門の方に指導をいただきながらやっていくということで考えております。

委員 長

崎元委員。

崎元委員

これ3月までやるんやね。

委員 長

生涯学習推進課長。

生涯学習推進課長

そうです、3月いっぱいやることを考えております。

委員 長

よろしいですか。

崎元委員。

崎元委員

これ雪やらが降ったら3月までにできるような面積じゃないと思うんですけど、できますか？

委員 長

生涯学習推進課長。

生涯学習推進課長

やる方向で頑張っていきたいと思います。

委員 長

崎元委員。

崎元委員

運動公園のところで芝張りしてから、イベントがあったときにそこへ駐車場として使うと思うんですけど、車は入れるんですか。

委員 長

生涯学習推進課長。

生涯学習推進課長

芝生の種類によっては、その上に、大きなイベントって年に何回か、二、三回を予定しておるんですが、1日、2日の車がその上に乗っても大丈夫という芝もあるそうなので、その辺も考えて、芝張りを行いたいと思っておりますが、この芝生、駐車場の用地に芝生を張ることによって、220台、今置ける状態なんですけども、それが置けなくなるというところで、運動公園のほうのアスファルトの部分で、今空いている敷地があるので、そこを駐車できるスペースとして126台置けるスペースがあるというのを、今、測量をしております。

それに加えて、周りのこるば、そちらのほうで87台、原子力緊急事態支援センター、そちらのほうで201台とめられるということを確認しておりますので、その部分が潰れても、そちらのほうで駐車はできますので、それに対応していきたいと考えております。

委員 長

よろしいですか。

川畑委員。

川畑委員

予算の計上のことでちょっとお聞きしたいんですけど、22ページの農業振興費の中の原材料費が162万上がっているということなんですけど、これは地元の者から材料費が上がって、材料費を計算するとそれぐらいかかると、でも手間は自分のところでやりますよというようなやり方なんやね。

今、生涯学習推進課長に聞いた北西郷公民館での芝張りは、逆に材料は、それも一緒か。材料を購入しておいて、芝張りは地元のボランティアでやってもらうというような予算計上の仕方なんですけど、こういうやり方というのは、地元の者に頼めば、要は経費が削減できていいことなんやというような考え方でやっとなるのか、それとも業者に任せて、後の管理を地元の者にしてもらうとかいうようなやり方とは違うのか、ちょっと考え方がよく分からないので教えてほしいんです。どうですか。

委員長

産業政策課長。

産業政策課長

この事業に関しては県の補助事業100%ということで、実施主体が町というような、事業主体が町というような枠組みがありまして、町がやる、そこに対して資材費、材料費を地元に戻すというような形になっています。

実際、地元が全部できるような流れがあるんですが、この事業に関しましては、事業の実施主体が町というようなくくりがあって、その補助事業を受けての形でございますので、今回そんな形となっています。

委員長

よろしいですか。

川畑委員。

川畑委員

意味が分からん、全然。

だから、全部地元の者ができると今言われたんやけど、全部、地元の者が材料も買って、実際、手間を入れると300万以上の工事になるかな、倍やね。それが全部、新庄区で全部できるということなんけ。説明の仕方がよく、内容が分からないのやけど。

委員長

産業政策課長。

産業政策課長

この事業に関しまして、その最適化の土地利用の国庫補助で、昨年計画を立てて進めとる事業でございますので、それを進めてい

く中で、新庄区のほうで協議会を立ち上げて、実習の主体がしっかりできているという部分がございます。

そういうこともあって、今回その材料費をお渡しして、地元で実施できる流れがあるということがございますので、その県の補助事業を活用して地元に使っていただく、そういうような形を考えたものでございます。

委員 長

川畑委員。

川畑委員

そこのやり取りの中で、地元の工事をやる人、自分の区のもの自分らでやらせてくださいよというような要望があったということ前提でよろしいですかね。

委員 長

産業政策課長。

産業政策課長

この事業自体は、そもそも地元の協議会が実施主体で進めておりますので、当然そういう要望があつてのことでございます。

委員 長

川畑委員。

川畑委員

今後も、他の地区はそういうふうに自分らの手間はもう地元のボランティアでやるから、そういうことに関しての原材料費を、もうやりたいと、そういう協議がなしでも、地元の区の区長が先頭になってやりたいという話、要望があつたらできるということですか。

委員 長

産業政策課長。

産業政策課長

この補助事業、今回これを活用するというところで、県に要望したところ、その事業があつたということでございますので、ケースバイケースで、地元の要望と、それをどういうふうにしてやっていくかというのは協議が必要かなというふうに思いますが、その年々で取り入れられる補助事業をしっかり活用していく考えはありますので、その地元の意見をしっかり聞いて、そこら辺は対応したいと思えます。

委員 長

川畑委員。

川畑委員

でも地元の要望がなかったら、そういう事業をどんな事業があるのかというのは探さないということやね。

地元の要望がやっぱ常に上がってこないと、どうしてやろうか、どうして助けてやろうかなという気持ちはならないということで、もう常に町長要望のときに区がこういうことをやりたいというような要望があつたら、そういうことを考える、探すということ

オーケーなんですかね。

委員 長

産業政策課長。

産業政策課長

町としましては常にそういうことは考えてございます。

財源をしっかりと、いろんなところで確保するという必要はありますので、その上で実施をしていけるようなことを考えていきますので、常に考えているということで御理解ください。

委員 長

町長。

町 長

いい質問をいただいたわけでございますけど、地元の中でみんなで行ろうかいなということを我々大事にしたいなというふうに思っています。そのきっかけづくりが集落元気プランだというふうに思っています、集落みんな寄って、みんなでこうしようけの、これは自分らでできないものの中にあります。

官民協働の部分もありますし、これは地元ではできるので、町でやってねというやつも出てくると思いますが、その一つの取組として資材を提供しながら、このぐらいのレベルやったらできる、安全にできるでしょう、このぐらいの規模なら経済的には大丈夫でしょうというようなことをいろいろ議論しながら、てんびんにかけて、今、川畑委員がおっしゃったことも我々は受け止めたいなというふうに思っています。

集落でしっかり議論をしていただきたいと思います。

委員 長

よろしいですか。

川畑委員。

川畑委員

先ほどの生涯学習課が何か返事したいような感じだったんで、ちょっと聞いてもらって、ちょっと。

委員 長

生涯学習推進課長。

委員 長

同じ答弁ということで。

分かりました。

藤本委員。

藤本委員

今ほどの川畑委員の質疑の補足説明というになるかならんのか分からんのですが、国の最適化推進事業ということで、新庄区のほうに話、今課長も言いましたように協議会、立ち上げまして、その中で1年間議論を積んできました。

この最適化事業というのは、これ以上、農地を荒らすなという事

業が第一の目的だと思っています。それというのも、水田でなしに水田以外の、要は山際ですんで、山菜とかワサビとか、いろいろ利活用できる品目に作り変える場所をつくるという事業なんです。

そこで、この今の場所がかなり山奥で、3枚ほどの田んぼ、機械もリースで全部入れまして、自分らでやってきたわけなんですけども、そこで出てきたのがこの獣害対策が必要ということで、今、こういうふうには162万の補助金をつけていただいておりますけども、それらも今まで、獣害対策に関しては結構先進的に取り組んできましたんで、そのノウハウがあるはずなんです、材料費だけ入れていただいて、しっかりやって農地を守っていこうということが主たる目的の事業だと私は思っています。

以上です。

ほかは。

梅津委員。

32ページの先ほどのすまいるコミュニティ事業で、芝生の件なんですけども、このすまいるコミュニティというのはやはり住民参加で、町民参加でにこにこしゃべりながら、わいわい言いながらコミュニティを図っていこうというふうな目的じゃないかなと思うんです。

私としてはこれ賛成なんですけども、なかなかこの一気に住民で張れよと言ってもなかなか進むもんじゃないので、私の提案としては、やはり指導員というのは業者の方がつき、専門的な人がついて、各種団体がそれぞれ分担して、小学校は何坪、中学校は何坪とか、仮に議会は何坪とかというふうな区分けをしてやっていけば早くいけるんじゃないかなと。

例えば、区長会にこんだけやらすとか、そうしないとなかなか、はいやれとやったって誰も応募してこないと思うんですね。また、時期が時期なんで、3月までにやれといったら冬場にこんなのできませんよね。ちょっと難しいなと思うんですけど。

それともう1点、お聞きしたいのは、後の肥料とか芝刈りやその水やり、この維持管理をどうするんやろうと思うんですけども、これは、また別途ボランティアでやれという話になるんですか。

委員長

梅津委員

ちよっとこの辺をどういう計画をしているのか。

委員 長

生涯学習推進課長。

生涯学習推進課長

今回予算計上しておりますのは、芝張りというところで計上しておりますが、そちら、後の管理になりますと来年度になっていくと思いますので、当初予算でその辺を検討していきたいと考えております。

委員 長

梅津委員。

梅津委員

分かりました。

地域住民をうまく活用する方法を、私が言ったような提案でお願いしたいと思います。

委員 長

町長。

町 長

梅津さんが言われた、この事業の目的はみんなで汗をかきながら物を作り上げるということは、今廃れていくことを危惧されています地域のコミュニティーの醸成にもしかりつながっていけると思いますし、みんなで作ったものは大事に使ってもらえるというふうに思っています。

特に、北西郷の取組について、ちょっと副町長のほうから、どんな経緯があっただろうかというのは、ぜひ先生方に聞いていただきたいと思えます。

委員 長

副町長。

副 町 長

御指名をいただきましたので説明をさせていただきます。

北西郷の公民館運営委員会というのが、北小学校から公民館に移行したときからございます。

現在、町内幅広く公民館活動をやっておられますけれども、一番最初に公民館としてスタートしたということで、モデル的な、パイロット的な事業も、これまでからもたくさんやっているところでございます。

そういった中で、今回、この芝張りの話については、これまでからも実は運営委員会の中で皆さん話をされていたという経緯が実はございまして、町長も日頃から言っておりますけれども、この集落なり、地域の元気が町の元気につながるんだ、まさに、住民の協働、また住民と行政との協働、そういった取組を進めていこうということで、町としてもいろいろな取組をしている。そうい

った一環の中で、公民館のこれまでの取組をさらに、みんなでやれることは何かほかにはないかなという話がいろいろとございました。

日頃、コロナ禍にありましても、公民館活動の中で、草刈りであったり、通常の掃除であったり、そういうこともこの地域の住民の方が実は進んでやられております。

そういったこともございまして、これまでの北小学校という時代を、自分たちも通っていた、親も通っていた、じいちゃん、ばあちゃんも通っていた、孫も通っていた。そういった学校がやっぱり寂れていくことについては寂しい気持ちがある、何とか守っていきたい、そういうことを運営委員会の皆さん方が話をされまして、昔はあそこのグラウンドの真ん中あたりに子供たちが寝転んだり遊んだりする芝生とか草のスペースもありましたけど、そういうスペースがあったんですよね。そういうところを、また、グラウンドを再生したい、北公民館を再生したい、そういった気持ちで非常にこの運営委員会の中で皆さん盛んに話をされまして、私も実は運営委員会、出席させていただきましてけれども、二十数人の方がいらっしゃいましたけど、今回の芝張りの取組について、全員一致でやろうと。

また、今後の、確かに、今ほど梅津委員が言われましたけれども、維持管理については不安なこともございます。そういったことについては、基本的には運営委員会、住民がやるよ、しかしできないところはまた行政助けてよ、そういう話の中で現在進められているということですので、非常にモデル事業になるんじゃないかなと、これは運動公園もしかりです。

住民の方、またそれに関わる方、そういった方がどれだけ出てきていただけるか、そういうことも我々は期待をしておりますけれども、そういった住民と行政、また住民同士の地域の関わりの中の協働の取組、非常にいい取組になるんじゃないかなというふうに期待をしておりますので、皆さん方も、ぜひともそういった形で御理解また御協力をいただければありがたいなというふうに思います。

委員長

よろしいですか。

中牟田委員。

中牟田委員

運動公園の芝生の件なんですけど、2日の日にたまたま運動公園に行かせていただいたときに、先ほど梅津委員がおっしゃった水やりや肥料や、いろいろな後のことをどうなるんだろうと心配されていまして、また、いろいろなお話を運動公園の館長さんなりにお知らせしていただければありがたいと思います。

委員長

よろしいですか。

ほかございますか。

辻井委員。

辻井委員

もう時間押しとるんですけども、最後にちょっと意見だけ、回答はよろしいです。

先ほど三方五湖のエリアでちょっと言ったんですけども、やはり美浜町はシジミのこと、これが、食べるものは必要だと思います。

それと、ボートの町美浜なので、やはりこの辺のところで、レガッタの交流とかもありますし、この辺のところ、ジェットクルーでは、クルーズ船ではできませんでしたが、今、電池船なので波も立ちませんから、この辺のところ、ガイドさんはレガッタのアナウンサーなんかもしていただいております。

それともう一点、ジェットスキーの乗り入れですね。これ非常に昔から問題があるんですけども、この辺の乗り入れのところもなくなると、一番穏やかなところでボート競技もできるし、練習もできるんじゃないかと思います。

以上、意見だけさせてもらいます。

以上です。

委員長

よろしいですか。

中牟田委員。

中牟田委員

浦見川のことですつこいようなんですけど、正式には浦見川ではなくて浦見運河だと思うんです。

私たちもそうして教えられてきたんですけども、なぜ浦見運河かと申しますと、日本海側の小川からずっと遊子、それから食見、世久見の漁業組合の方は海山にまで山越えをしてお魚を持ってきて、海山の栈橋から浦見川を通って早瀬の市場に持ってきたという、そしてそういう私が先ほど申しましたように、海山の人たち

が田んぼのために浦見川を使ったということで、これは生活のためになくってはならない川だったということで、正式には浦見運河ですよというふうに、私、須磨先生から教えていただきましたので申し上げておきます。

委員長

予算の審議のほうのお話でお願いいたします。

それでは、まだございますかね。

12時を迎えようとしているんですけども、どういたしましょう。

継続で。

ほか、ございますでしょうか。

できれば74号議案までを審議したいなと思いはあったんですが、無理ですか。

川畑委員は何か審議ございますか。

昼からでよろしいですかね。

審議の途中でありますけれども、休憩いたします。

午後は、1時半から再開いたしますので、よろしく申し上げます。

(休憩宣言 午前 11:57)

(再開宣言 午後 1:25)

委員長

それでは、皆さんおそろいのようなので、休憩前に引き続き会議を開きます。

現在、議案第74号 令和5年度美浜町一般会計補正予算(第5号)の22ページの農林水産業費から33ページの教育費までの質疑を受けております。

質疑、ございますでしょうか。

川畑委員。

川畑委員

28ページの土木費の山頂公園整備工事費、これは小倉山のことなんですけど、300万しか見ていないんですね。

前も道路をつけてやっていく、公園をつくるといったこともお聞きしたんですけど、何年かけてやるんですかね。単年度、1年か2年で完成するというのはできないんですかね。内容をちょっとお聞かせください。

委員長

土木建築課長。

土木建築課長

私のほうから御回答させていただきます。

今回の伐採整備費301万4,000円でございますが、こちらは、山頂からの眺望を確保するため、本年度、山頂周辺の土地所有者の方と協議を進めてまいりました。このたびその伐採に係ります同意のほうを得られましたので、この落葉している時期を狙いまして伐採を実施したいということで、今回、工事費のほうは計上させていただきました。

また、小倉山公園整備につきましては、2年にわたり整備を、本年度を入れますと5、6、7というふうな3年になりますが、計画を持っております。6、7、2年にわたり本格整備をする計画をしておるわけでございますが、小倉山の山頂公園は麻生砦遺跡に指定をされておりまして、文化庁と事前協議のほうを進めてまいりました。

その中で、公園整備を行う際には、施設の基礎部分が文化財に影響を与えないようにという指導がありまして、約1メートル程度の盛土を行うようにという指導がございました。

そのため、来年6年度は、山頂公園のその盛土及び、それに向かいます連絡道路の部分改良や、その盛土に支障にならない箇所の整備を行いまして、翌7年度に盛土の締まり具合を確認した後、遊具やあずまやなどの公園の本格的な施設整備をさせていただきたい、そのような計画で今考えておるところでございます。

委員 長

川畑委員。

川畑委員

詳しい内容をありがとうございました。よく分かりました。

できるだけ早く完成させて、地元の者が遊びに行けるような公園ということをお願いしたいと思えますし、公園整備というふうな話を聞きますと、大体、小倉山の公園が久々に出てきたような状況、それと運動公園の公園を整備する状況というふうになっているんですけど、例えばですけど、公園整備というふうな事業の予算計上というのは、あまり近年見られないような状況なんですけど、運動公園を見ますと、トイレが和式のままとかトイレ整備がなかなか進んでいないとかいうような状況もある中で、各区における公園整備というのもなかなか聞いたことがないんです。

全体的に公園整備という要望が、各区からの区長の要望というの

はあるんじゃないかと思うんですけど、その状況を踏まえて、今後、美浜町内の公園整備というのを細かくやっていくような計画というのはあるのかどうか、ちょっとお聞きしたいんですけど。

委員長

こども政策統括幹。

こども政策統括幹

今ほど公園整備の件で御質問をいただきました。

早速今年度から屋内の遊具、遊び場ですか、そういった基本計画を立てようといった計画をしてございますけども、その中には、町内の公園、そういう遊び場の在り方、そういったものも今、検討を進めてございます。

例えば屋内遊び場ですと、町内のこの辺り、そうすれば屋外の、例えば運動公園ですとこういう機能を増やしたほうがいいのか、そういったことを含めた計画を今立ててございます。

また、集落の遊び場でございますけれども、毎年、区のほうから、特に今ですと、修理に関する要望があります。これについても、現行の制度では、修理に関しては各区の設置者であります、区のほうでお願いしとるわけなんですけども、そういった補助をしてほしいという御意見がございますので、そういったことを含めて、総合的に計画の中に織り込むというか、そういう計画をする中で協議をしていきたいと考えております。

委員長

川畑委員。

川畑委員

整備計画をする中で、その予算を、国庫補助、県費補助を取ってきて、それから計画して地元の区長の要望を聞いていくようなやり方なのか、それとも、地元の要望、区長の要望の公園整備を、言われたからいろんな国県の補助金を考えながら、探しながらやっていくのかというような考え方があるんですけど、そういう考え方というのは、どっちの方向で行っとるんですかね。

要望をしてもなかなか公園の整備ができないとかいうことがあるんですが、今も内容的に、話を聞きますと、なかなか進まないような内容のような感じに見えるんですけど、どっちですかね。補助金があるから使いたいとか、要望があるから補助金を探すとかいう感じ。卵が先か鶏が先かという話かもしれませんが、どんな考えでやるんですかね。ちょっとお聞きしたいんですけど。

委員長

こども政策統括幹。

こども政策統括幹

子供整備、各集落からあります遊具につきましては、基本今までですと、宝くじのコミュニティ助成事業、そういったものを活用してお願いをしてございました。

それ以外の有利な補助制度、ちょっと見当たらないのかなと思うんですが、基本、集落の遊具につきましてはそういったコミュニティの宝くじのを活用いただくのと、あと整備後の維持管理、これが大事でございますので、やはり地元区の要望を中心に、そういうふうに維持管理を含めて要望していただくところを中心にそういった整備を進めていくというのが基本かなと考えてございます。

委員長

川畑委員。

川畑委員

何もかも宝くじの補助金を使ってやるという話はずっと昔から聞いていまして、自分のところの区がやれるようになるまでに4年も5年もかかるとか、長い期間要することとあるんですね。

でも、それを抜きにして、もうそういう補助金は抜きにして、地元から切実なこういう整備をしてほしい、公園整備をしてほしいというような要望があれば、宝くじの補助金の事業は関係なしで別の方法を考えて、やっぱり一つの手段として考えてやってもらうということができないでしょうかね。それを抜きにして考えるということは無理ですかね。

委員長

こども政策統括幹。

こども政策統括幹

基本、今申し上げましたとおり、宝くじのそういった助成金を活用してということなんですけども、今、川畑委員がおっしゃるとおり、宝くじの助成というのは、本当に県下でも二、三件というんですか、非常に採択の件数が少のうございます。美浜町に割り振られることも少ないものですから、その辺、宝くじの助成以外に、町としてしっかりそういった手当ができないか、今検討中でございます。

またそういったことが決まれば議会のほうに御相談というか、御報告をさせていただきたいと思います。

委員長

高橋委員。

高橋委員

また先ほどの三方五湖の話に戻るんですが、お客様は、最近はネットを見てくる方が多いと思うんですが、前にも全員協議会で申

し上げましたけど、今もここで見ると、三方五湖遊覧船と入れて検索をすると、若狭町のものがずっと、レイククルーズ、これがずっと出てくるんですよ。どんどん繰っていても美浜町のがなかなか出てこない。やっと出てきたのはJ Rのホームページに載っている、これは頼んだんですか、J Rのやつと、あとJ A Fに載っていますね。そこまで行かないと、レイクセンターができて電池船がありますということが、ぴっと来ないんです。それはぜひ、簡単にできることだと思うので。

それともう1点、ウィキペディアって皆さんよく使うでしょ、何か物事を調べるときに。そこで三方五湖というのを調べてみてください。そうすると、もうずっと古くて、ジェット船が廃止されています、運休しています、レークセンターは運休ですというようなことがずっと書いてある。それを見て、全国の人が知らんわけですから、三方五湖かといって検索したら、違う情報が入ってくるんですよ。

それでは、幾らP Rしますとか何だと言っても、それはやっぱりいかんと思うから、これは早急に検討されたほうがいいと思います。

もう一件、いいですかね。

はい。

先ほど言われましたけど、私、観光地として三方五湖なりこの辺を見たときにすごく足りないなと思っているのは、トイレとベンチですね。まず座るところがない。

例えば久々子湖の周りをずっと歩いていったとしても、座って休んで景観を見るというような場所がないんです、座れる場所が。それ、ずっとどこもそうです。和田から久々子へ行って、きれいな海ですよ、あそこ。自転車で、あの辺を歩いて通ったら本当にきれいなところですよ、天気の良い日は。でも、止まって休んでみようかというようなことができない。

いろんなところへ行くとそういう目で僕は見るんですけど、前にむつへ行ったときに朝早く起きて歩いてみたんですけども、あそのところは、でかい石がいっぱい置いてあって、その石の上を、きれいに大理石を磨いたみたいなベンチがざっとあるんですよ、あ

委員長
高橋委員

の川のほとりに。ごみ一つ落ちていなくて、きれいだ、きれいだって私、皆に言ってちょっとひんしゆくを買いましたけど、座るところがいっぱいあるんです。

もう一つ、トイレです。トイレが足りませんよ。

女性の声を聞くと、前に町内に遊歩道がずっとあって、ここところは散歩道としていいですよとって地図を出されましたけども、トイレがなかったら女性は行けませんと、こう言いますよ。

私、例えばサイクリングでずっと水月湖だとかあっちを回ってくるんだけど、トイレ大変ですよ。

この間、家族で女性を連れて一緒に行ったんだけど、結局裏の梅がいっぱい植えたところをずっと回って行って、海山のところまでいかないと、海山の例のレイククルーズのところまで行って、トイレを貸してくださいと言って、やっとそこでやれましたけども、やっぱりトイレが整備されていないと行く気にならないんです。

ほんで、年寄りはずっと近くなりますから、バス旅行でも、バス旅行で止まるまでの時間が長くて、トイレもたないからバス旅行はよう行かんわという方だって出てきているんですよ、現実ですね。

だからトイレもちゃんと整備して、ベンチも整備して、高齢化も進むので、そこのところはそんなに大きな費用は、トイレは大変かもしれませんが、整備をしないと、みんな来てくださいということについてはちょっと弱いんじゃないかなという気持ちがありますので、一つ提案しておきます。

もう一点いいですか。

はい。

道路、サイクリングロードをいっぱいやりますと。確かにいい道路、いい景観だと思います。

しかし、やっぱりインフラがすごく老朽化していて、道路が傷んでいるところがいっぱいあるんですね。

自転車で行くと、特にロードバイクなんかは大概細いので、割れ目に入るとひっくり返りそうになるんですけど、結構アスファルトが陥没したりひび割れがあったり、横の水路との間に、コンク

委員長
高橋委員

リートの間に段差があって、その段差に乗り上げるだけでもおかしくなりますのでね。そういうところがいっぱいあるんですわ。

それは簡単には直らんなどと思って見ているんですけど、一つは、アスファルトをどんどん掘り返しますとひび割れができますよね。そこから雨が入るんですよね。アスファルトというのは、地盤の強度でもって表面の平坦さが維持されているので、割れ目ができて水が入っちゃうと地盤がぐちゃぐちゃになって、すぐにアスファルトが駄目になるんですよね。だから、ひびが入ったらすぐにアスファルトは駄目になると考えたほうが良いと思うんですけど。

だから、結構タールでひび割れをずっと塞いでいくような手もあると思うんですが、今、なるべく早めに、水が中に、地盤に浸透していかない手を打つべきだということと、それと、道路が、ここがおかしいですよ、陥没していますよということ、国道なり県道なりいろいろあるので難しいんですけど、住民の方はなかなか、識別してこれはどこへ言ったらいいなやという話になりますが、その場所の写真を撮って送ったら、どここの場所の道路がこういう状況になっているとか、こここのところがこういうふうにならないとか、そういうアプリというのを結構導入している自治体がございますので、そういうものを使って、何でもかんでも、困った困った、送られたら困る、それは取捨選択すればいいので、そういうふうなアプリを導入されたらどうですかということ、3点提案しておきます。

委員長

サイクリングロードの周辺の整備について、高橋委員からお話がありましたが、答弁はございますでしょうか。

土木建築課長。

土木建設課長

ありがとうございます。

特に私たちは町道の管理者ということで、町道管理を日々させていただいております。

今お話にありましたように、当課のほうには、国道、県道、町道、農道も含めまして、陥没やその他支障のある箇所につきましては、日々いろいろなところから御連絡をいただいております。

国道、県道に関しましては、その都度主管する国交省や県のほう

にも御連絡をさせていただいておりますし、町道に関しましても、御連絡いただきましたら即現場のほうを見て、直せるところは即直すような体制を取らせていただいております。

また今後もいろいろ、そのような不備なところがございましたら土木のほうに御連絡いただければというふうに思います。

委員長

高橋委員。

高橋委員

分かっています。私も写真を撮ってよく送ったりするので。

ただ、受け取る側も手間やろうなと思うんですね。私も手間なんです。写真を撮って、文書をつけてメールで送ったりするから。

だからアプリでポッとやると、そのまますぐに受け取る側のほうも、そこまで一々見に行かなくても一時的な判断はできるというふうな、そういうICTを使ったら随分合理化できると思っていますので、検討されたらどうですかということです。

委員長

よろしいですか。

ほかにございますでしょうか。

幸丈委員。

幸丈委員

僕も2点ありまして、一つ、最初は意見なんですけど、さっき高橋さんからトイレの数が少ないということをおっしゃられたと思うんですけど、僕も夏頃、最近敦賀半島がサイクリングに力を入れてきとるんで、車でどのぐらいの間隔でトイレがあるかというのを1回自分で回ったことがあるんですけど、そのときに、僕もやっぱりトイレの数がすごい少ないなという印象を持ちましたので、やっぱりトイレの数はその人らの満足度につながると思いますので、そこら辺、またこういう意見があるというのだけ聞いてもらえるとうれしいです。

もう一つ、さっきから三方五湖ゾーンと言われとって、観光面全般なんですけど、今日、町長のほうから、九州のローカル鉄道のところでよかった点について、やっぱり設備とか風景もよかったと思うんですけど、おもてなしがよかったということをおっしゃっていました。

僕も基本的に同じ考え方で、設備に投資してすごいものをつくるのもいいんですけど、やっぱり町外の人から美浜のあそこへ行ってきたでということをおっしゃられて、施設がよかったという感想より

も、おもてなしがよかったという声を聞いたときのほうが個人的にはすごいうれしく思っています。

そこら辺のおもてなしについてはなかなか行政のほうから指導することは正直難しいと思うんですけど、僕が先月空港に行ったときに見たもので、これはすごくいいなと思ったことがあるので、ちょっと話をしますと、空港なので外国人の方が多く来られます。外国の方が日本に来られて、最近やったら英語とか中国語とか、そういうのが書いてあるんですけど、やっぱり困っている人っていると思うので、その人らに対して、電光掲示板の中で、困った人がいれば皆さんで助け合いましょうみたいな文言が書かれた掲示板があったので、僕も見たとときに、やっぱりそういうのを見ると、自分の行動とか考え方を見直すきっかけになると思うので、美浜町もやっぱりそういうおもてなしにすごい力を入れてほしいなと個人的には思っているんで、そういう観光客とか人がよく来るようなところには、そんなにお金がかかるものではないので、そういうふうな看板を一つ立てるというのもいいのかなと思いますので、紹介だけします。

こういう案に関して、観光課長、どのように思いますか。

委員 長
観光誘客課長

観光誘客課長。

ただいま幸丈委員がおっしゃられたとおり、おもてなしというのは本当に大切なことだと思います。

お客さんが来られたときの第一印象というのが、まずそこが大事なのかなというふうに思います。

観光協会としても、旅館、民宿のおかみさんに対してはおもてなし研修とかもやっていますし、そういうところはいろいろ気にしながらやっているんですけども、これからもおもてなしの検討というのは大切にしていきたいというふうには考えております。

委員 長
幸丈委員

幸丈委員。

ぜひ看板の検討もよろしくお願いします。

以上です。

委員 長

ほかに質疑は。

川畑委員。

川畑委員

26 ページの今の遊覧船のことなんですけど、1人乗ると1,9

00円かかるんですね。

この間、うちの息子が名古屋から帰ってきて、ちょっとどこか、レインボーラインがよくなったし見に行って、遊覧船に乗って帰ってこいやと言ったら、そのとおり行ってきたんですね。レインボーラインへ行くと駐車料金が1,000円かかって、2人で遊覧船に乗ると3,800円かかって、大体5,000円ぐらい、車に乗っていくとかかると。高かったわって一言で終わったんですけど、1,900円という値段はどう思っていますかね、行政側としては。DMOがつくった金額なんですけど、高いのか安いのか。今後もしやという1,900円という金額でやっていく方向しかないのか、安くできないのかという、考えがありましたらちょっとお聞きしたいんですけど。

委員長
観光誘客課長

観光誘客課長。

ただいま遊覧船の料金のことをおっしゃられたんですけども、正式には大人が1,980円、子供が990円という価格設定やったかなと思います。

これは、町がどうしよう、こうしようといって制定したわけではなくてDMOのほうで設定をされているわけで、確かに今の1人1,980円といいましても、2,000円という金額になってくるので高いのは高いかなと私も正直思いますけども、アンケートの中からはそういう、アンケートですけども、アンケートの中からは1,980円の値打ちは十分あったというような声も実際にあるのはあるんです。

今のところ、美浜町、若狭町は990円、そして、町外からのお客さんも、地元の人がおれば990円で乗れるというような値段設定をDMOでは組んでいるんですね。

今後もしやその金額が安くなるのかどうかというのはまだ、こちらのほうから意見としてDMOには伝えますけども、すぐにそれが適用されるかどうかというのはちょっと、今のところ御答弁はできません。申し訳ございません。

委員長

よろしいですか。

川畑委員。

川畑委員

こちらの議会で、今の予算決算常任委員会の中でそういう話が

出て、伝えるだけでは何の効果もないと思いますので。

やはり行政はそれが正しいかどうかということは何もできないということの理解で我々はいいのかどうか。もう聞いて言うだけで、行政としては指定管理者を決めたけど、こういう感じで指導するとか、こういうやっていってほしいということは、もう決まったら一切なしで、全部お任せという感じでやっていくということを考えておけばいいんですかね、我々は。

その答えだけ教えてください。

委員 長
観光誘客課長

観光誘客課長。

私としては、その指導といいますか、DMOに対しては、そういう声があったというのは強く言いたいと思います。

その中でしっかり判断していただいて、できれば金額を下げる方向でできんかというのももうちょっと検討してくれというようなことでは話をしようと思います。

委員 長
川畑委員

川畑委員。

何か人任せのような感じで、言われたから言うんじゃないしに、行政として1,900円が妥当なのかどうかという検討もせなあかんのじゃないかということをやるとるんですね。

それが、例えば行政として指定管理者を決めたけど、あまりにも高いという評判もいろいろあるから、今後考えてほしいという、そういう根拠づけみたいなのをもって言わんと、議会からそういう話があったからただ伝えるだけでは、絶対向こうには通じんと思いますけど。

ただ、議員が町民から聞いてそういう話があるんやということをやっただけでいいんかどうか。進展が何もありませんけど、その辺は一遍考えてやってください。もうこれ以上言いません。ありがとうございます。

委員 長

ほか、ございますでしょうか。

(なしの声あり)

委員 長

ほかにはないようですので、次に、歳入関係のほか、調書等全般的な質疑をお受けいたします。

質疑はございますか。

竹仲委員。

竹仲委員

10ページの諸収入の関係で、嶺南地域活性化推進事業補助金というのがあるんですけども、今回、その26ページの三方五湖の魅力アップ事業と発信事業かな、半分ずつここから補助金が出とるんですけども、このお金の使い方って、例えば、メニューがあればそのメニューに対して半分出してくれるという補助なのか。要するに、メニューが合えば全額出してくれる補助なのか、それとも、美浜町の枠として何億の枠の中で使える補助金なのか。

これは、多分、嶺南広域行政から来る補助金だと思うんやけど、その辺はどういう考えでしたらいいのか。2億円ぐらい今年は出とるんですけど、これでマックス、これ以上今年は使えんのかなという話なのか。この収入の考え方を教えてください。

委員長

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長

ただいま嶺南地域活性化推進事業補助金についてのお尋ねということで、私のほうから説明をさせていただきます。

こちらにつきましては、おっしゃるように嶺南行政組合からの補助ということでございまして、全体枠の中で1市町あたり大体6,000万という枠がございまして、その中で、補助率は1市町あたり6,000万円、この中でやるものでございまして。

目的としましては、観光誘客の拡大であったり定住促進のための基盤整備、企業誘致などの雇用機会の拡大につながる事業等の支援を通じて嶺南地域全体の活性化を図るという目的のものでございます。

対象の経費の範囲としましては、観光施設整備であったりイベントの開催、それらに係る経費に充てることができるということでございます。

委員長

竹仲委員。

竹仲委員

それはよく分かるんですけども、今回、その魅力アップ事業のときに半分ずついただいたでしょ、940万に対して。470万と490万かな。今は974万3,000円入とるんやけど、こういった事業に対しては、半額が上限として補助できるものなのか、メニューさえ合えば全額出してくれるものなのか。今、半分半分に割とるし、根拠を知りたいといったらおかしいけど。

この6,000万という枠が美浜町に与えられとるんやから、ど

こに使っても自由ですよっていう枠なのか、いやいや違うんです、ある程度のメニュー枠があって、このメニューやったら全額出せるけどこのメニューやったら半額しか出せんとかいうのか、町でこれだけくださいという枠なのか、この使い勝手を教えてくださいと言っとるんやけど、分かる？分かりません？質問の意味は分かるでしょ。

委員長 答弁よろしいですか。

まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長 今の全体の枠が6,000万円の中で枠がございまして、その中で、例えば10分の10であったりとか、10分の5であったりとか、そういうのはあるんですけども、その枠の中で調整させていただいております。

委員長 竹仲委員。

竹仲委員 今回したのは半分半分に分けたでしょ。この意味がよく分からない。別に、方や全額にして方やゼロでも構わんと思うんやけど、分けなあかん理由は何か。要するに、こういう補助制度は何分の1しかできんのでこうやって分けるとか、こういったメニューの場合は10分の10出るとか、何かそんな基準があるんですか。

いや、別に基準はないけど、町の考えとして、この6,000万の範囲の中で今は単なる分けただけですよということなのか、その辺のことを知りたいです。

だから、何を聞きたいかというのと、例えば6,000万という額が1年間ありますよと。これは、町である程度自由裁量で使えるんですよ。いやいや、違うんです、ある程度の縛りがあるんですよということを教えてくれればいい話なので。

要するに、観光に使えるのは2,000万あるけど、その2,000万のうちでもメニューの中の2分の1しか出せんというのか、メニューが全額出してくれるのかということ。分かるでしょ？難しくないね？

言えない事情があるんやったら言えないと言ってくれたらいいんやけど。

委員長 総務課長。

総務課長 この枠につきましては、地域の活性化ということで、町の独自

の考え方で、この事業には10分の10充てる、例えばこれやったら2分の1という形で、自由裁量で決められるようになっています。

委員長

よろしいですか。

ほか、ございますか。

幸丈委員。

幸丈委員

言わんとうこうと思ったんですけど、今、総務課長の顔を見たらちよつと言いたくなって。すみません。

今日、午前中に、北陸新幹線、米原回りで今後も東京へ行くというようなことを言われておったんですけど、昼も一部の議員ともしゃべっていて、それはちょっと変かなとか、やっぱり福井県がこうやって、北陸新幹線が来るというので言っているの、やっぱりそこはちょっと、多少高くなるにしても、行政として応援していったほうがいいんじゃないかなというのがすごいあるので。

例えば、毎回それはできないかもしれないですけど、何回かに1回とかはそっちで行くとかいうのをまた計画してもらえるといいかなと思いますし、そうしていかなあかんのじゃないかなとは個人的に思いますので、そこら辺、また御検討をよろしくお願いします。

委員長

総務課長。

総務課長

先ほど申しましたのは原則としてということで、特には。時間的な余裕とか、いろんなことがありましたら東海道回りのほうが金額的、時間的にも節減できるかなという考え方を持っております。

ただ、これからの振興とかいろんなことを考えたり、経路とか、どちらをって行く場所とか、行き先とか、いろんなことを踏まえると、北陸新幹線が認められないという話ではなくて、理由があればそちらのほうも可能だという形で、予算編成上の方針を出しているということ考えます。

委員長

幸丈委員。

幸丈委員

そこら辺も、その理由の中で、例えば僕は一回も北陸新幹線に乗ったことがないので、一回ぐらい乗りたいとかいう理由で、職員がそういう理由で出してきたら、そのときはオーケーというサインを出してあげてほしいなと思いますので、よろしくお願いします。

委員長 ほかほございますでしょうか。

(なしの声あり)

委員長 ほかにないようですので、以上で議案第74号の質疑を終了します。

次に、議案第75号 令和5年度美浜町国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)を議題といたします。

本議案について、理事者の説明を求めます。

委員長 住民環境課長。

住民環境課長 (詳細説明)

委員長 議案第75号の説明が終わりました。

質疑をお受けいたします。

質疑はございませんか。

(なしの声あり)

委員長 ないようですので、以上で議案第75号の質疑を終了します。

次に、議案第76号 令和5年度美浜町介護保険事業特別会計補正予算(第2号)を議題といたします。

本議案について、理事者の説明を求めます。

委員長 健康福祉課長。

健康福祉課長 (詳細説明)

委員長 議案第76号の説明が終わりました。

質疑をお受けいたします。

質疑はございますか。

(なしの声あり)

委員長 ないようですので、以上で議案第76号の質疑を終了します。

次に、議案第77号 令和5年度美浜町簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)を議題といたします。

本議案について、理事者の説明を求めます。

上下水道課長。

上下水道課長 (詳細説明)

委員長 議案第77号の説明が終わりました。

質疑をお受けいたします。

質疑はございませんか。

(なしの声あり)

委員長 ないようですので、以上で議案第77号の質疑を終了します。
次に、議案第78号 令和5年度美浜町集落排水処理事業特別会計補正予算（第3号）を議題といたします。
本議案について、理事者の説明を求めます。

委員長 上下水道課長。
上下水道課長 （詳細説明）

委員長 議案第78号の説明が終わりました。
質疑をお受けいたします。
質疑はございませんか。
（なしの声あり）

委員長 ないようですので、以上で議案第78号の質疑を終了します。
次に、議案第79号 令和5年度美浜町公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）を議題といたします。
本議案について、理事者の説明を求めます。

委員長 上下水道課長。
上下水道課長 （詳細説明）

委員長 議案第79号の説明が終わりました。
質疑をお受けいたします。
質疑はございませんか。
（なしの声あり）

委員長 ないようですので、以上で議案第79号の質疑を終了します。
次に、議案第80号 令和5年度美浜町産業団地事業特別会計操出補正予算（第2号）を議題といたします。
本議案について、理事者の説明を求めます。

産業政策課長 産業政策課長。
産業政策課長 （詳細説明）

委員長 議案第80号の説明が終わりました。
質疑をお受けいたします。
質疑はございますか。
（なしの声あり）

委員長 ないようですので、以上で議案第80号の質疑を終了します。
それでは、各委員会の採決の前に、議員間討議を設けることができると決定しております。

本委員会に付託された7件の事案に関し、討論はございますか。

(なしの声あり)

委員長

ないようですので、以上で本委員会に付託されました議案の質疑、討論は終了しました。

ただいまから採決に入ります。

議案第74号 令和5年度美浜町一般会計補正予算(第5号)を議題といたします。

本案について、原案のとおり承認することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

委員長

賛成多数であります。

よって、議案第74号は賛成多数をもって承認することに決しました。

議案第75号 令和5年度美浜町国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)を議題といたします。

本案について、原案のとおり承認することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

委員長

全員賛成であります。

よって、議案第75号は全員賛成をもって承認することに決しました。

議案第76号 令和5年度美浜町介護保険事業特別会計補正予算(第2号)を議題といたします。

本案について、原案のとおり承認することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

委員長

全員賛成であります。

よって、議案第76号は全員賛成をもって承認することに決しました。

議案第77号 令和5年度美浜町簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)を議題といたします。

本案について、原案のとおり承認することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

委員長

全員賛成であります。

よって、議案第77号は全員賛成をもって承認することに決しました。

続いて、議案第78号 令和5年度美浜町集落排水処理事業特別会計補正予算(第3号)を議題といたします。

本案について、原案のとおり承認することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

委員長

全員賛成です。

よって、議案第78号は全員賛成をもって承認することに決しました。

議案第79号 令和5年度美浜町公共下水道事業特別会計補正予算(第3号)を議題といたします。

本案について、原案のとおり承認することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

委員長

全員賛成であります。

よって、議案第79号は全員賛成をもって承認することに決しました。

議案第80号 令和5年度美浜町産業団地事業特別会計繰出補正予算(第2号)を議題といたします。

本案について、原案のとおり承認することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

委員長

全員賛成であります。

よって、議案第80号は全員賛成をもって承認することに決しました。

以上をもちまして、本委員会に付託されました議案7件の審査は終わりました。

最後に、副委員長、閉会の挨拶をお願いします。

副委員長

(挨拶)

委員長

これをもって、予算決算常任委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

(閉会宣言 午後 2 : 2 0)

予算決算常任委員会の経過（質疑応答部分のみ）を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

予算決算常任委員会委員長 兼田 和雄